

仲間をさそってまた参加したいデンマーク福祉の旅

報告：高橋博子

楽しく子育てできる国

デンマークは出生率を 1.37 から 1.78 に回復させた国です。父親も母親も夕方には帰宅し、働く女性は 78% でその家庭の乳幼児には公的保育が用意され、教育、医療が無料！この国には本当に感動し、福祉の旅には感謝、感謝です。

日本でも同じような労働政策や福祉施策が実現し、本当に男性も家庭を大切に、子どもを育てることができたなら、きっとみんなもっと子供を育てたいと思い、楽しく子育てできるのではと思いました。

日本は「子育てする」という基本的な人間の権利が奪われた状況であり、そのなかで母親が必死に孤軍奮闘しつつ子育てしているので、学力偏重の価値観の重圧と合わさって、子育てのストレスが最高に達しているのではないかと思います。



< 森の保育園の活動 >

デンマークの教育の目的

デンマーク社会の人格形成の目標は、「自分の意見がはっきり言え、自分で自分のことが決められる人間を育てること」です。

このことは人間の平等意識にも、人間同士の互いの尊重にも、高福祉を実現した政治参加にもつながると思いました。

デンマークでは税金が本当に国民のためにつかわれています。

日本のように箱物づくりの公共事業、汚職、悪政の後始末、政党のために使われていません。

「そんなことをしたらデンマーク国民は黙っていない」というお話を聴き、投票率ほどのくらいかと思ったら 80% を超えるということでもたびびっくりでした。

「日本は政治的無関心が、政治的、意図的につくられている」という人がいます。

知り合いに「働かされすぎで選挙なんかいつあったか知らない」という人がいたのはそのせいで、本当に日本は国民のための政治をしたくないんだなと実感しました。

日本は豊かに見えて全部が貧しい！そんなことを感じてしまいました。

人間が大切にされている政治施策

デンマークで視察した一人 2 室の高齢者

の介護施設、広い敷地に乗馬やゴーカートなどの施設だけでなく、それを指導する専門家も配置した学童保育、ひとり一人の障害にあわせて迅速につくられる補助器具のセンター、介護者が腰痛にならないためのリフトを家庭にも施設にもつけていき、「介護者は高齢者や障害者を自分の力で持ち上げてはいけない」という規則がある施設介護などにもカルチャーショックの連続でした。 皆が健康ではたらし続けられるよう予防施策が徹底しています。

日本の貧しさに悲しくなり、無力感を感じたりしましたが、旅を共にする方々と共通の苦労や悩みを語り合うことで、感情をたてなおして旅を続けることができたことはありがたく、また幸せでした。

日本にあった

高福祉をつくりたい

日本人の人間関係は「察しの文化」といわれます。

言葉にしなくても通じ合えることや、家族も同居が自然で、デンマークとは違います。

日本に昔からあった「地域社会の支えあい」というあたたかい文化はほとんどなくなってしまいましたが、日本人の人間関係にあっていて、しかもひとりひとりの人権を大切にする福祉の形があるはずだと思います。

その形をたくさんの人と考えあえていけたらいいのではと思います。

私の働く保育園では、地域の支えあいにかわる父母同士の人間関係をつくることにとりこんでいます。

また保育園に通園していない地域の赤ちゃんや弱者の支えあいシステムを自主的に

作ることにとりくみはじめています。

さまざまな小さなとりくみから、人権をみんなで考え、高福祉を実現する政治を、貪欲につくりだしていくことに力を出しあえたらいいなと思います。



< 高齢者委員会の方々との交流 >



< 夏代さんのお宅にお世話になって >

HPIは [ひの社会教育センター](#) 検索